

平成 21 年度第 3 回 建築学教育 FD/IT 活用研究委員会 議事概要

- I. 日時：平成 21 年 9 月 10 日(木) 午後 4 時 30 分から午後 7 時まで
- II. 場所：私立大学情報教育協会事務局会議室
- III. 出席者：若井委員長、衣袋副委員長、真下委員、寺尾委員、関ロアドバイザー
井端事務局長、森下、恩田

IV. 検討事項

資料：

- ①平成 21 年度第 3 回建築学教育 FD / I T 活用研究委員会次第
- ②平成 21 年度建築学教育 FD / I T 活用委員会名簿
- ③～⑦ 建築学教育における学士力（案）各委員提出
- ⑧分野別の教育課程編成上の参照基準について（基本的な考え方）[参考資料]
- ⑨平成 21 年度第 2 回建築学教育 FD / I T 活用研究委員会会議 議事録
- ⑩建築学教育における学士力（本日の議論を纏めた修正案）

V. 議事概要

事務局長より本日の主題である「建築学教育における学士力」の文案作成の議論を再開する際に、文案の書式および表現に関する纏め方について説明がなされた。続いて、委員長より資料⑨の前回議事録の確認が行われた後、資料③および資料④から⑦の修正案を踏まえて、文案作成の議論が行われ、「詳細設計」における「到達度」を中心とした文案が作成された。最後に本日の修正案が資料⑩として纏められた。後日、同資料を精査した案を委員長が纏めて、次回の委員会までにメール審議が行なわれる。

1. 学士力の詳細設計について（前回からの継続）

1) 詳細設計の纏め方について

- ・主要 4 項目において、見出しの文言を省き、直接本文に入る。
全体の流れから、見出し過多を避けるため、直接本文から開始する。
- ・「コア・カリキュラム」に「のイメージ」を追記し、末尾に「など」を追記する。
カリキュラムの名称は大学により、事情が多様であり、具体的な名称による限定を極力回避するために、「のイメージ」を追記し、末尾に「など」を追記する。
- ・「到達目標」を「到達度」に変更する。
達成目標の深度を明確にするため、「到達度」に変更する。
- ・「測定手段」を「評価手段」に変更する。
送り出す大学側の責任所在も明確にすべく、「測定」を、「評価」という文言に変更する。

2) 文案作成の手順について

- ・主要 4 項目の「解説」、「コア・カリキュラムのイメージ」および「到達度」について、優先的に議論を行う。

主要 4 項目は相互に密接に関連しており、各項目の詳細を明確にしていくためには、相互の関連性をも確認しながら、深度を増していく必要がある。このため、主要 4 項目の上記の細目に関して、優先的に議論を進める。

- ・各項目の「到達度」に関して、箇条書きに纏める。

到達度の各事項を明確に主張するため、箇条書きで纏める方針を採用した。

3) 詳細設計について

- ・「コア・カリキュラムのイメージ」と「到達度」との整合性を計る。

到達度の各事項を実践していくためには、コア・カリキュラムのイメージとの対応が必須であると考えられ、相互の整合性を重視した。

- ・第 1 項目の解説で、「広範な専門的知識」を「専門的な基礎知識」に変更する。

第 2 項目との重複を避け、第 1 項目は「専門的な基礎知識」とした。

- ・第 1 項目の「コア・カリキュラムのイメージ」に「建築の数学・物理」を加える。

「専門的な基礎知識」を修得するためには、「数学・物理」が必須であり、建築関連分野を意識して「建築の数学・物理」とした。

- ・第 1 項目で「造形演習」を「造形」に、「建築史・意匠」を「建築史」に変更する。

カリキュラムの表現において、特定の限定した科目でなく、汎用性のある、柔軟な提案とするため、上記とした。

- ・第 1 項目に「情報処理演習」を移動する。

「情報処理演習」は、当初、第 2 項目に記載されていたが、リテラシーを含め「専門的な基礎知識」として捉えることが適切であると判断された。

- ・第 1 項目の到達度として、4 事項を提案する。

到達度を明確に表現するため、第 1 項目は、4 事項程度が適切で、分かり易い表現方法であると判断された。

- ・第 2 項目の解説で、「計画、環境、構造、材料」を明記する。

第 2 項目で、分野毎の深度を増すために、第 2 項目の解説で、「計画、環境、構造、材料」からなる建築の主要な分野として上記を明記した。

- ・第 2 項目の到達度で、「計画、環境、構造、材料」と対応した項目を明記する。

第 2 項目の解説で明記した「計画、環境、構造、材料」に関して、各事項に対して具体的に到達度を深めるための文言を、分野毎に明記した。

- ・第 2 項目で、「最新の耐震設計法に基づく」を「力の流れを理解し」に改める。

「最新の耐震設計法」の内容を数量的に求める能力の修得を学部で目指すより、基礎的な力学を確実に身に付ける必要性が指摘された。

- ・第 2 項目で、「材料力学」「応用力学」は、「構造力学」に含める。

構造力学は、一般的に「材料力学」や「応用力学」を含めた広範囲に渡る科目

として位置付けられていることが多く、詳細な科目の表現を避けた。

- ・第3項目の解説で、「環境などの視点」を追加する。
これからの教育において、「環境」を意識した内容は益々重要性が高まると判断され、追加された。
- ・第3項目に、「都市計画」を移動し、「地域計画」を追加する。
「都市計画」は、第2項目より第3項目で扱い、「地域計画」を含めて、広い視野に立った建築技術者の養成を目指した。
- ・第3項目の「建築マネジメント」を「建築・環境マネジメント」と変更する。
第3項目の解説でも謳われた「環境」という文言を、「マネジメント」にも明確に記載し、今後の社会の要求に応える建築技術者の育成を目指した。
- ・第3項目の到達度で、「法令順守や倫理規範」を最初に位置付ける。
第3項目の到達度において、最も中心的な役割を示す事項として、第1優先に「法令順守や倫理規範」を明記した。
- ・第3項目の到達度で、「都市や地域の福祉」の表現を用いる。
第3項目の到達度で、「福祉」の範囲に関して議論が行われ、「都市や地域」とした表現が最も適切であると判断された。
- ・第3項目の到達度で、「地域環境および室内環境に配慮」の表現を採用する。
第3項目の到達度で、「環境に配慮」の表現において、その範囲に関して「地域および室内」の表現が、具体的でかつ最適であると判断された。
- ・第4項目の解説で、「分析力」を追加する。
第4項目には、「企画力、創造力」ばかりでなく、特に工学系では、「分析力」も要求され、「分析力」を追加することで合意に達した。
- ・第4項目の到達度で、「建築実験」を「建築実験・解析」に変更する。
卒業研究などでは、「建築実験」ばかりでなく、「解析」も重視する必要がある、このため「建築実験・解析」とした。

以上を含む種々の論議を経て、資料⑩が作成された。

2. 次回の委員会開催日

平成21年10月29日(木) 13:30~15:30

3. 次回までの宿題

『建築学分野の学士力の詳細設計について(継続)』

- *本日作成された修正案に対して、委員長が精査し、修正案を更新する。その後、その修正案を、事務局から各委員に配信し、同案に対するメール審議を継続して行なう。

以上